

校長の話

校長 上村 哲也

第一小学校のみなさん、新年あけましておめでとうございます。

2021年、令和3年、新しい年、そして3学期が始まりました。朝、元気に登校してきたみなさんの笑顔を見た今、私自身とても清々しい気分です。みなさんもいつもとは違う特別な気分でいることと思います。

さて、始業式でどんな話をしようかと新聞を読んでいたところ、これはいいなと思う話を見つけました。今日はそれを紹介したいと思います。

第一小学校はいくつかの新聞を購読していますが、その中に「朝日小学生新聞」があります。その新聞に、「ひきたよしあき」という方が書いている「大勢の中のあなたへ」というコラムがあります。1月4日は「新しい年をむかえたあなたへ」というタイトルでした。

＜朝日小学生新聞 コラム「大勢の中のあなたへ」より（抜粋）2021/1/4掲載＞
スペインの画家、サルバドール・ダリの言葉をおくります。「完ぺきをおそれるな。完ぺきになんかなれっこないのだから」

この言葉に出あうまでは、目標に到達できなかった自分を「だめな人間だ」と決めつけていました。でも、「完ぺきにできること」なんて世の中にはめったにないんだよね。・・・たとえば目標の半分しか達成できなかったとしても、50%は完ぺきに近づいたことになる。・・・だから少しでも完ぺきに近づく努力をした自分をほめてあげよう。・・・

2012年のあなたには、自分の行いや考え方を減点するのではなく、加点してほしい。・・・「わずかにできたこと」に目を向けて・・・

新しい年を迎え、みなさんも新たな目標や計画を立てていることでしょう。そのために精一杯努力することはもちろん大切です。そうしなければ何も手にはできません。ですが、物事はうまくいくことばかりではありませんし、誰にでも失敗したり途中であきらめたりした経験はあるでしょう。そんなときに、ひきたさんの考え方は大いに参考になると思います。完ぺきな目標達成を100点満点と考え、今の自分はスタートラインに立っている（つまりまだ0点）と考えれば、たとえ50点までしか行かなかったとしても努力が無駄になることはありません。こう考えると何かやる気がわいてきませんか。

ただし、この話は、「完ぺきな目標達成なんてどうせ無理だから、最初から完ぺきをめざさなくてもいいよ。」という話ではありませんよ。

「小学生のみなさんは、自分の夢に向かって、高い目標を掲げ、努力を積み重ねていかなければなりません。でも、まだまだ失敗しても大丈夫無駄ではないんだよ。」という話です。

それでは、みなさん、きっと新鮮な気持ちでいる今日から、またがんばっていきましょう。これで、話は終わります。

